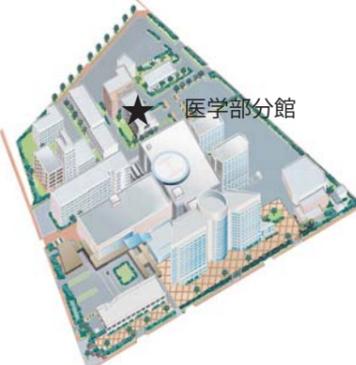


名古屋大学附属図書館概要

2013

- 0 中央図書館
- 1 文学図書室 2 教育発達科学図書室 3 法学図書室
- 4 経済学図書室 5 国際経済政策研究センター情報資料室
- 6 情報・言語合同図書室 7 国際開発図書室 8 理学図書室
- 9 工学部中央図書室 10 機械・電子機械・航空図書室
- 11 電気・情報図書室 12 化学・生物系図書室 13 土木系図書室
- 14 生命農学図書室 15 環境医学研究所図書室
- 16 太陽地球環境研究所図書室・エコトピア科学研究所
- 17 地球水循環研究センター図書室
- 18 アイソトープ総合センター図書室 19 情報基盤センター図書室
- 20 総合保健体育科学センター図書室 21 留学生センター

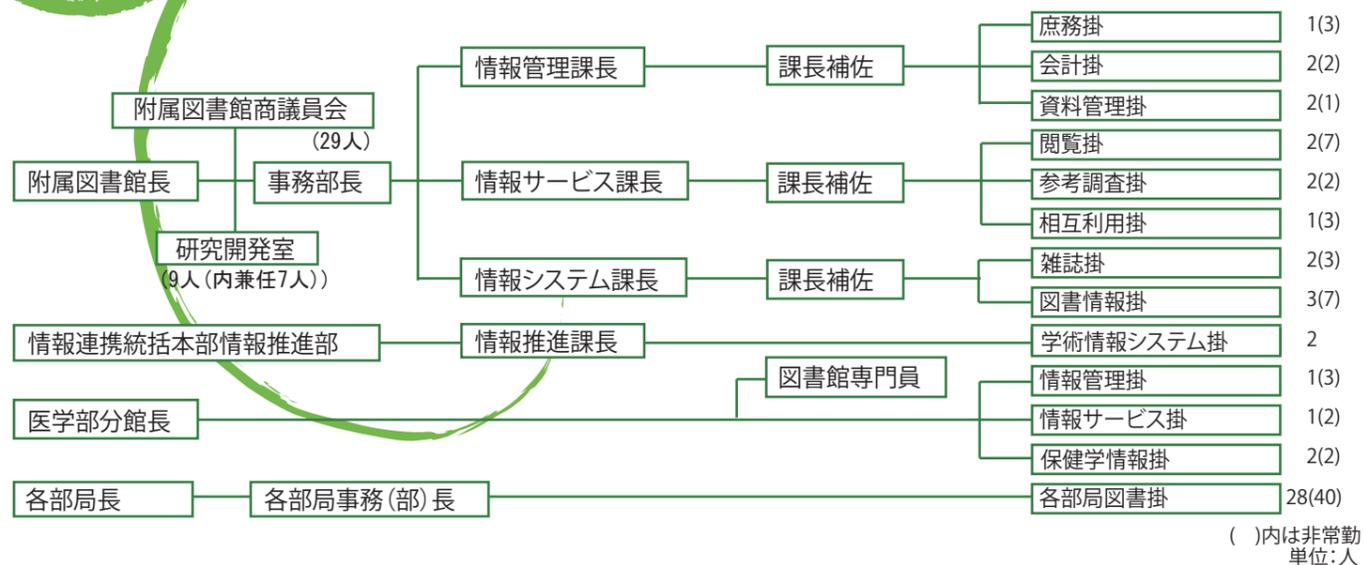
鶴舞キャンパス



大幸キャンパス



附属図書館の運営及び事務組織



附属図書館のミッション

1. 附属図書館は、「名古屋大学学術憲章」に基づく名古屋大学の教育研究活動が必要とする学術情報の利用提供を担う中心機関として機能し、その活動の支援を行う。
2. 急速に進む学術情報の電子化に対応する学術情報基盤としてハイブリッド図書館化を推進すると共に、名古屋大学の教育研究成果の発信機関として機能し、教育研究活動の支援を行う。
3. 高度に情報化された21世紀社会と緊密な交流を持ち、文化の継承と社会への貢献の役割を果たすため、広く自由に開かれた学術情報の利用提供を行う。
4. 学術情報の国際的な受信・発信を推進すると共に、その利用提供の中心的機関として機能し、広く世界の学術活動に奉仕する。

沿革

| | | | |
|-----------------|--|----------|--|
| 1939年 4月 | 名古屋帝国大学(医・理工2学部)創設 医学部構内(昭和区鶴舞町)に附属図書館開設、各学部に図書分室設置 | 1964年12月 | 東山キャンパスに古川図書館(中央図書館)開館 |
| 1942年 4月 | 理工学部が工学部と理学部に分離、両学部に図書分室設置、東山キャンパスへ移転 | 1966年 4月 | 農学部(図書室)東山地区へ移転 |
| 1945年 3月 ~5月 | 空襲により図書館資料の一部焼失 | 1970年10月 | 附属図書館報『館燈』創刊 |
| 1946年 3月 | 環境医学研究所附置に伴い図書室設置 | 1973年 3月 | 鶴舞キャンパスに医学部分館設置 |
| 1947年10月 | 名古屋大学附属図書館に改称 | 1981年 9月 | 新中央図書館開館 |
| 1948年 9月 | 文学部及び法経学部設置に伴い両学部に図書分室設置 | 1989年 5月 | プラズマ研究所(図書室)廃止 |
| 1948年10月 | 附属図書館が昭和区鶴舞町から中区南外堀町へ移転 | 1994年10月 | 中央図書館増築工事竣工 |
| 1950年 4月 | 法経学部の分離に伴い法学部図書室、経済学部図書分室設置 | 2000年12月 | 中央図書館に展示室開設 |
| 1952年 4月 | 瑞穂分校及び豊川分校統合による教養部(瑞穂区瑞穂町)設置に伴い図書分室設置 | 2001年 4月 | 附属図書館研究開発室設置 |
| 1952年 9月 | 農学部設置(安城市新田町)に伴い図書分室設置 | 2006年 2月 | 名古屋大学学術機関リポジトリNAGOYA Repository公開 |
| 1960年 8月 | 文・理の2学部を除く各学部に図書掛設置 | 2009年12月 | 中央図書館にラーニング・commons設置 |
| 1961年 4月 | プラズマ研究所附置に伴い図書掛設置 | 2010年 7月 | 理学部の全学科図書室を統合し理学図書室開室 |
| | | 2010年 5月 | 中央図書館にコーヒーショップ開店 |
| | | 2011年 6月 | 工学部中央図書室が一部学科図書室を統合しES総合館に移転開室 |
| | | 2012年 6月 | 金沢大学附属図書館、静岡大学附属図書館、名古屋大学附属図書館による「学習支援促進のための三大学連携事業に関する協定」締結 |

数字で見る附属図書館(2012年度)

サービス対象者数 25,009人 (学部生 10,198人、院生 6,378人、教員 3,642人、職員 4,791人)

蔵書数

| | 和書 | 洋書 | 合計 | 所蔵雑誌種類数 |
|-------|-----------|-----------|-----------|---------|
| 中央図書館 | 676,743 | 539,951 | 1,216,694 | 17,936 |
| 医学部分館 | 105,733 | 94,943 | 200,676 | 5,290 |
| 部局図書室 | 904,559 | 873,503 | 1,778,062 | 25,019 |
| 合計 | 1,687,035 | 1,508,397 | 3,195,432 | 48,245 |

図書館サービス

| | 開館日数 | 入館者数 (内学外入館者) | 貸出冊数 |
|---------------------|---------|-----------------------|---------|
| 中央図書館 | 353 | 822,049 (38,413) | 140,493 |
| 医学部分館 (保健学図書室除く) | 274 | 103,087 (765) | 6,470 |
| 部局図書室 | 142~280 | 363,351 (2,385) | 87,669 |
| 合計 | - | 1,254,085 (40,592) | 234,632 |

図書館経費

| | 中央図書館 | 医学部分館 | 部局図書室 | 合計 |
|-------------------|---------|---------|---------|-----------|
| 図書費 | 195,067 | 107,113 | 459,017 | 761,197 |
| 図書費の内 EJ・DB相当分 | 123,516 | 65,742 | 230,566 | 419,824 |
| 運営費 | 176,793 | 17,644 | 62,908 | 257,345 |
| 合計 | 371,860 | 124,757 | 521,925 | 1,018,542 |

単位:千円

相互利用(中央館)

| | 受付件数 | | 依頼件数 | |
|------|-------|----|-------|----|
| | 国内 | 海外 | 国内 | 海外 |
| 文献複写 | 5,317 | 31 | 1,654 | 47 |
| 現物貸借 | 1,297 | 10 | 1,101 | 20 |

参考質問件数(中央館) 2,947件

電子図書館サービス

| | |
|---------------------------|-------------|
| 電子ジャーナル提供数 | 31,776種 |
| 電子ジャーナルダウンロード件数 | 1,913,851件 |
| 電子ブック提供数 | 90,081種 |
| データベース提供数 | 45種 |
| データベース検索数 | 359,155件 |
| OPACアクセス件数 | 1,813,990件 |
| 図書館HPアクセス件数 | 14,432,698件 |
| NAGOYA Repository登録件数 | 14,472件 |
| NAGOYA Repositoryダウンロード件数 | 1,075,214件 |

施設

| | 面積(m ²) | 座席数 |
|-------|---------------------|-------|
| 中央図書館 | 15,597 | 1,037 |
| 医学部分館 | 2,852 | 377 |
| 部局図書室 | 9,057 | 615 |

ラーニング・commons

中央図書館ラーニング・commonsは、自律的な学習を支援し、知識の創造を促す、図書館の新しい学習空間です。以下のような学習環境を学生のみなさんに提供することを目指しています。

- 図書館の学術情報基盤をもとにして、協同学習、ITを活用した学習が行える総合的な学習環境
- 情報リテラシー能力の育成及び学習を効果的に行えるサポートサービス
- 学習及び学生生活に関する各種情報の提供

→ <http://lc.nul.nagoya-u.ac.jp>



おもなコレクション

高木家文書

高木家文書は、美濃国石津郡時・多良両郷(現・岐阜県大垣市上石津町域)を本拠とする、旧旗本交代寄合・西高木家に伝来した古文書群です。総数は10万点に及ぶとみられており、幕府瓦解とともにほとんどの旗本資料が散逸したなか、他に例をみない、傑出した規模と内容を有しています。

高木家文書は、旗本領主制の研究に寄与する旗本文書であるだけでなく、国内最大級の系統的河川・治水史料でもあることから、高い評価と注目を集め、様々な分野で活用されてきました。

現在までに6万2,000点余が目録化されており、附属図書館研究開発室では、残る書状類の整理を進め高木家文書の全体像の解明に取り組むとともに、損傷・劣化が進んだ文書の修復と保存環境の改善、利用環境の向上に努めています。



木曾三川流域大絵図

高木家が河川管理に用いた宝暦治水(1754-55年)以前の流域環境を示す絵図。

伊藤圭介文庫

日本における近代植物学の祖といわれる伊藤圭介の稿本188冊を集めたもの。『錦窠植物図説』『錦窠魚譜』『錦窠蟲譜』などの図譜のほか、『採草叢書』などがある。



『錦窠植物図説』より

水田文庫

アダム・スミスの世界的研究者である水田洋名古屋大学名誉教授の旧蔵書で、近代西欧社会思想史関係の原典約2,100点を含む約7,300冊のコレクション。



水田文庫の一部



宝暦4(1754)年2月15日付 起請文

学術情報のデジタル化・情報発信



エココレクション → <http://libst1.nul.nagoya-u.ac.jp/eco/index.html> NAGOYA Repository → <http://ir.nul.nagoya-u.ac.jp>



附属図書館が所蔵する高木家文書、伊藤圭介文庫、和漢古典籍の電子化により普段接することのできない貴重資料をエココレクションとして公開しています。

また、NAGOYA Repository(名古屋大学学術機関リポジトリ)を構築し、学術論文や学位論文など学内で生産された学術情報の発信を行っています。

研究開発室

2001年4月に設置された附属図書館研究開発室では、全学における教育研究支援機能の高度化を図るため、電子情報資源と伝統的紙媒体資料を統合したハイブリッド図書館の実現に向けた研究開発を行っています。

主な研究課題

- 貴重資料のデジタルアーカイビング
- 地域諸施設との連携と地域社会への貢献
- 情報リテラシー教育の普及と高度化
- 教育研究支援のためのシステム開発

刊行物

- 附属図書館研究年報
- 附属図書館研究開発室年次報告

